

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 10 月 11 日 (2007.10.11)

【公開番号】特開 2006-71894 (P2006-71894A)
 【公開日】平成 18 年 3 月 16 日 (2006.3.16)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-011
 【出願番号】特願 2004-254282 (P2004-254282)
 【国際特許分類】

G 0 3 G 15/20 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 15/20 1 0 1

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 8 月 28 日 (2007.8.28)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 4】

基本的な構成は、セラミック基材（加熱体基材、ヒータ基材）・抵抗発熱体等で構成した加熱体（ヒータ）と、前記加熱体を支持する加熱体支持体と、前記加熱体と摺動する可撓性部材と、前記可撓性部材を介して前記加熱体と圧接して定着ニップを形成する加圧部材と、を有し、前記定着ニップ部で未定着画像が形成された記録材を挟持搬送して、前記可撓性部材を介した前記加熱体からの熱により未定着画像を記録材上に固着画像として定着させるものである。前記可撓性部材としては耐熱性・薄膜の樹脂製や金属製のフィルムが用いられる。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 5 4】

加熱体 7 3 の背面側、本実施例 1 においては抵抗発熱体 7 3 b の形成面側とは反対面側を、加熱体支持体 7 1 の加熱体嵌入溝部 7 1 1 の底面の加熱体座面 7 1 a ～ 7 1 c（図中の斜線部）に当接させ、定着ニップ N との間に加熱体 7 3 を挟持させることによって支持する。即ち、加熱体支持体 7 1 は、定着ニップの面に対して鉛直方向に加熱体 7 3 を当接挟持して加熱体を支持する加熱体座面領域 7 1 a ～ 7 1 c を有している。加熱体座面 7 1 a と 7 1 b の間と加熱体座面 7 1 a と 7 1 c の間はそれぞれ空隙部（座繰り形状）7 1 2 としてある。即ち加熱体 7 3 の抵抗発熱体 7 3 b を覆う領域と加熱体エッジ 7 3 1、7 3 2 付近を加熱体座面 7 1 a ～ 7 1 c に当接させている。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 5 5】

図 3 の横断面図により、加熱体 7 3 と加熱体支持体 7 1 と定着ニップ N（定着ニップ領域）との関係を説明する。